



避難生活支援コーディネーターの育成 ○J Tカリキュラム

避難生活支援コーディネーターの育成OJTカリキュラム



○「避難生活支援・防災人材エコシステム」構築に向けた避難生活支援コーディネーター育成OJTカリキュラムの試行プログラムとして、令和6年能登半島地震における避難所等において、R5年度・LS研修講師養成研修受講者を対象に、LS研修講師に同行し、避難生活支援を行うこととした。

| | 七尾市 | 穴水町 | 輪島市 ※7月中旬開始 |
|----------|--|---|--|
| 受入団体 | 被災地NGO協働センター 担当者：頼政氏 | レスキューストックヤード (RSY) 担当者：栗田氏・浦野氏 | ピースポート災害支援センター (PBV) 担当者：辛嶋氏 |
| 期間 | 2月下旬～4月上旬 | 2月上旬～3月中旬 | 7月中旬～8月下旬 予定 |
| 関わり方 | 団体の拠点で受入団体スタッフとともに、もしくは単独で物資を受け取りに来た被災者へのニーズの聞き取りを行った。 また、専門職（看護）と被災者宅に伺い、ニーズの把握を行った。 | 自らの経験とスキルを活かして、一つの避難所で環境改善に必要な取組を提案・実施を応援職員、町職員と連携し実施。RSYスタッフと調整しつつも、単独で判断することもあった。 | — (7月中旬～以降に活動) |
| 具体的な活動内容 | <ul style="list-style-type: none"> 物資の荷受け、配布物資の補充、炊き出し支援 物資拠点に来た被災者へのニーズ、困りごとを聞き取りし受入団体（協働センター）に共有 戸別訪問：ボランティア支援の内容やその相談伺い 看護師派遣職員と一緒に避難所の物資に関するニーズの聞き取りを行う 避難所の統合に向けて市の担当課と打合せ | <ul style="list-style-type: none"> 避難所の環境改善を検討するため一つの避難所を訪問し状況確認。対口支援の自治体職員と運営について相談 避難所にて情報掲示板の作成および敷布団等の利用状況の確認、部屋割りの調整に伴う掃除や物資の整理 避難所運営のタイムスケジュールや役割分担を決める際のファシリテーターを担う 在宅避難者への昼食をお届けし、被災者の困りごとを伺う | <p>(想定される活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> PBVスタッフと一緒に避難の運営や避難生活に関する被災者支援を行う 避難所の他運営スタッフをコーディネーターする役として活動 辛嶋氏と一緒に避難所全体、避難生活に関する支援を総括する立場で活動 など |

| 派遣対象者 | 場所 | 期間（予定含む） |
|--------------------------------------|-----|----------------------------------|
| 小山内世喜子氏（男女共同参画地域みらいねっと代表理事） | 穴水町 | 2月1日～2月6日 |
| | 七尾市 | 3月15日～3月19日（総合体育館） |
| | 輪島市 | 7月26日～7月31日＊予定 |
| 北村育美氏（さすけなぶる研究会／東日本大震災支援全国ネットワーク） | 七尾市 | 2月9日～2月13日 3月20日～3月24日（総合体育館） |
| | 七尾市 | 2月21日～2月27日 3月30日～4月5日（総合体育館） |
| 佐藤純氏（特定非営利活動法人 Hand Over Japan 代表理事） | 輪島市 | 7月11日～7月16日＊予定 |
| | 七尾市 | 2月21日～2月27日 |
| 小柳由佳氏（日本赤十字社長野県支部 参事） | 穴水町 | 2月24日～3月1日 |
| 水野直樹氏（特定非営利活動法人 ソナエトコ理事長） | 輪島市 | 8月22日～8月28日＊予定 |
| | 穴水町 | 3月5日～3月11日 |
| 甘中繁雄氏（NPO法人首都圏防災士連絡会 理事） | 穴水町 | 3月9日～3月13日 |
| 細谷真紀子氏（山形県自主防災アドバイザー、図上訓練指導員） | 輪島市 | 7月19日～7月24日＊予定 |
| | 七尾市 | 3月11日～3月16日 |
| | 輪島市 | 8月3日～8月8日＊予定 |



写真①：避難所での避難者に炊き出しの状況を伺っている（小山内氏）／写真②：役割分担を決めるMTGで進行を行う（小山内氏）
 写真③：在宅避難者へのニーズ聞き取り後の報告（小柳氏・佐藤氏）／写真④：福島大学の学生ボランティアと物資提供スペースの整理を行う（高智穂氏）



OJTカリキュラムを実施して、避難生活支援コーディネーターとして求められると感じた役割

【OJT実施者の意見まとめ】

避難生活支援コーディネーターとして、避難所運営において多岐にわたる役割を果たすことが求められた。特に避難所等での被災者やボランティアとのコミュニケーションを円滑にすることが重要であった。また、地域住民と支援団体、行政との調整役としての役割があり、避難所の環境改善や被災者支援に対して中立かつ柔軟に対応する力が求められた。

○個別のご意見

地域住民の支えとなる

避難所運営に携わる地域住民の支えになること
若い住民は日中避難所を出ることが多く、避難所の運営・仕事・家の片付けと多重タスクを抱える。そういった地域で重要な方の支えとなり、避難所に関わる役割

多様な主体との連携

地元ボランティア、他県の応援職員、DWAT、DRAT、大学などの多様な主体がそれぞれ活動しているが、これらの主体間での情報共有が十分でないため、コミュニケーションを積極的に図り、避難所の環境改善と自主運営につなげた

環境改善と関係構築

良好な避難所生活のための環境改善
被災者一人ひとりに寄り添い、声をすくい上げる
避難所運営に向けたスキルの提供

若年層や未経験ボランティアのサポート

若年層のボランティアや経験の少ないボランティアが見逃していることを広い角度から観察・把握し、避難所運営会議で共有する役割

調整役としての役割

市の職員と住民や支援団体との調整役
支援団体のサポート、住民と支援団体の橋渡し
中立な立場で行政側、ボランティア、被災者に対して臨機応変に対応する役割

その他

情報収集力、コミュニケーション力、調整能力、臨機応変さをもって活動すること
運営に携わる方々と関わり、避難所を一緒に作り上げ、生活再建に向けて進む意識づけ
生活環境の改善やアドバイスだけではなく、状況に応じたイベントの提案やアドバイス